

H26科研費の獲得に向けて

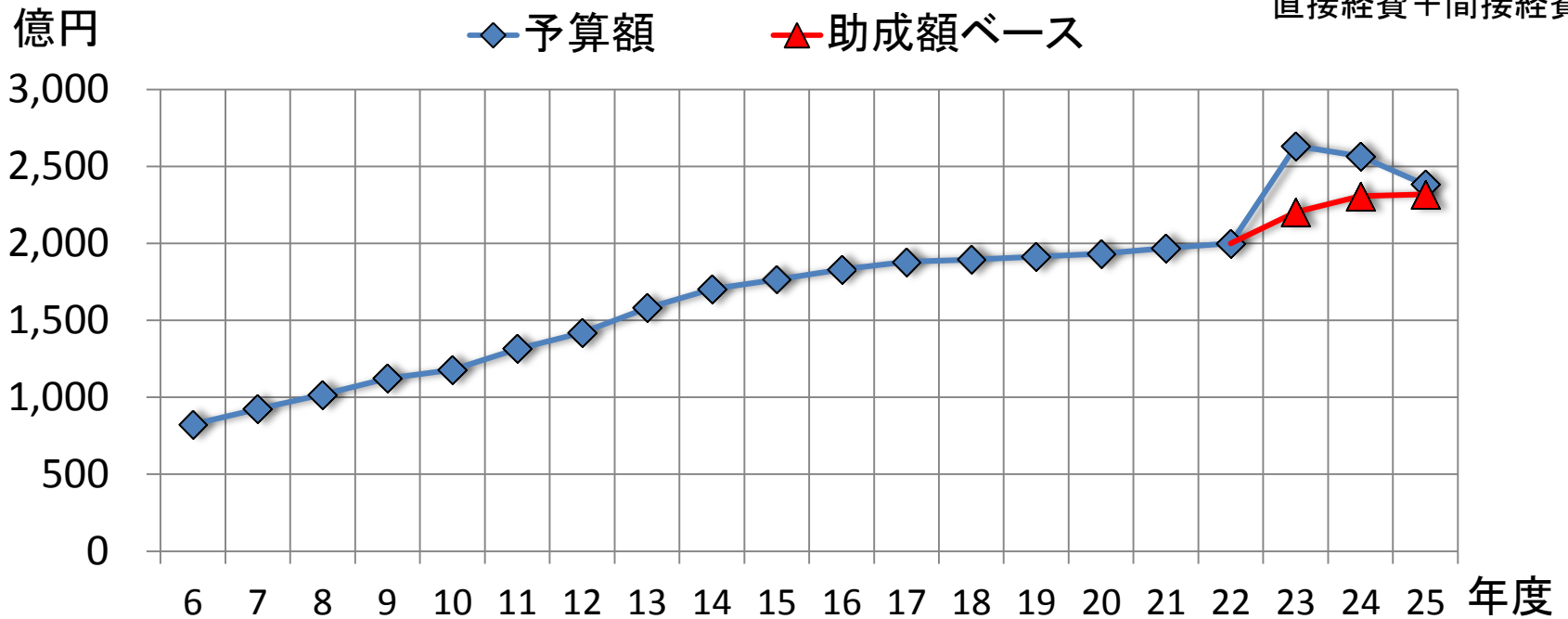
1. H25予算「予算額」と「助成額」
2. 理大の現状
3. 採択率をUPするために
4. 応募者のメリット
5. 不正使用防止について
6. 応募に向けたスケジュール

平成25年7月18日 教授会(4学部)
学外連携推進室

平成25年度 科研費予算

1. H25予算

直接経費+間接経費



予算額 H25: 2,381億円
H24: 2,566億円

助成額 H25: 2,318億円
H24: 2,307億円

「予算額」 基金分の翌年度以降(複数年)を含む額

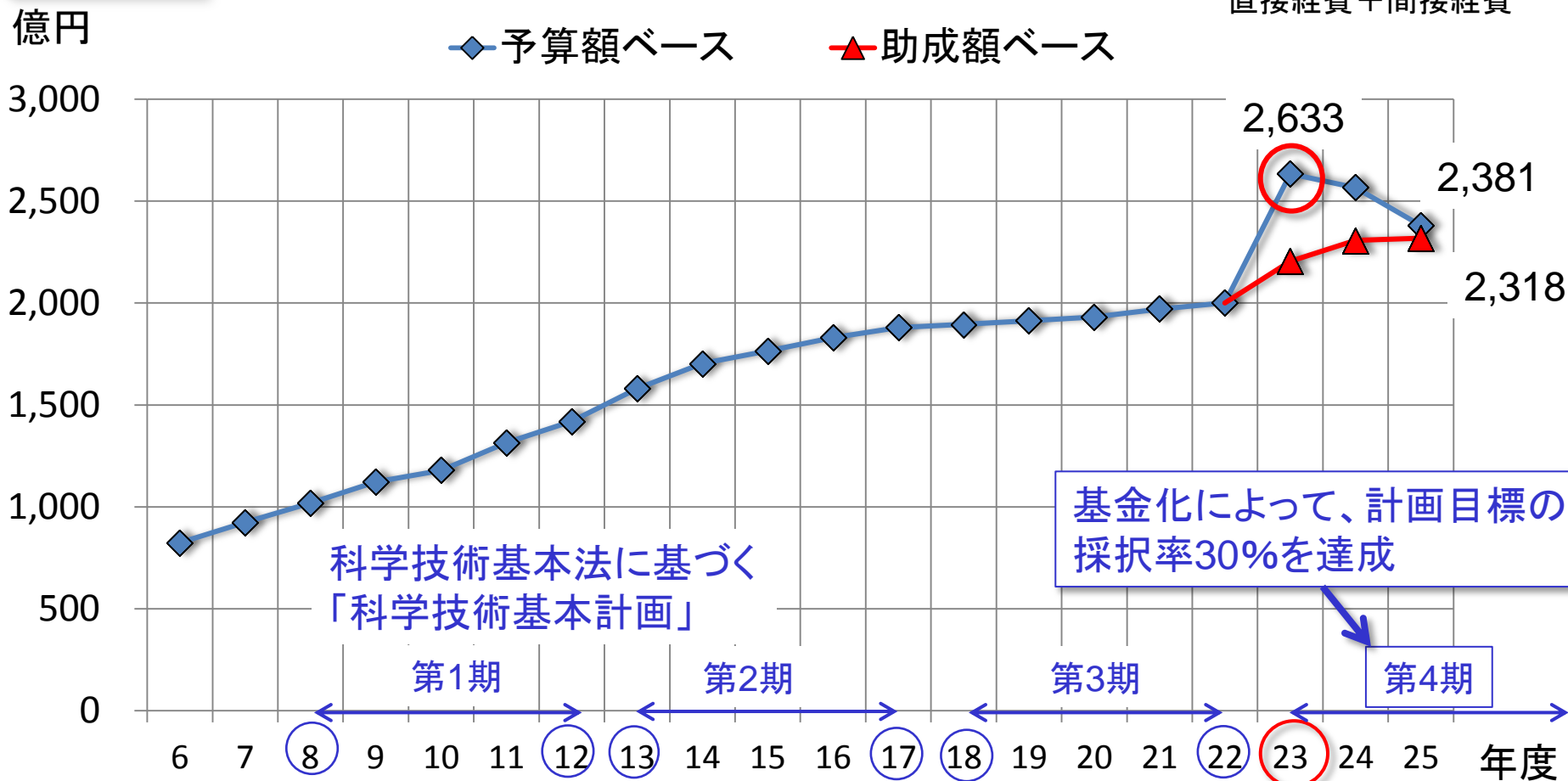
「助成額」 基金分を[単年度]で見た額

※H23年度から「基金化」導入により「予算額」「助成額」での標記となった

平成25年度 科研費予算

1. H25予算

直接経費+間接経費



科学技術基本法に基づく
「科学技術基本計画」

基金化によって、計画目標の
採択率30%を達成

基金化
導入

「助成額」 基金分を[単年度]で見た額

「予算額」 基金分を[複数年]で見た額

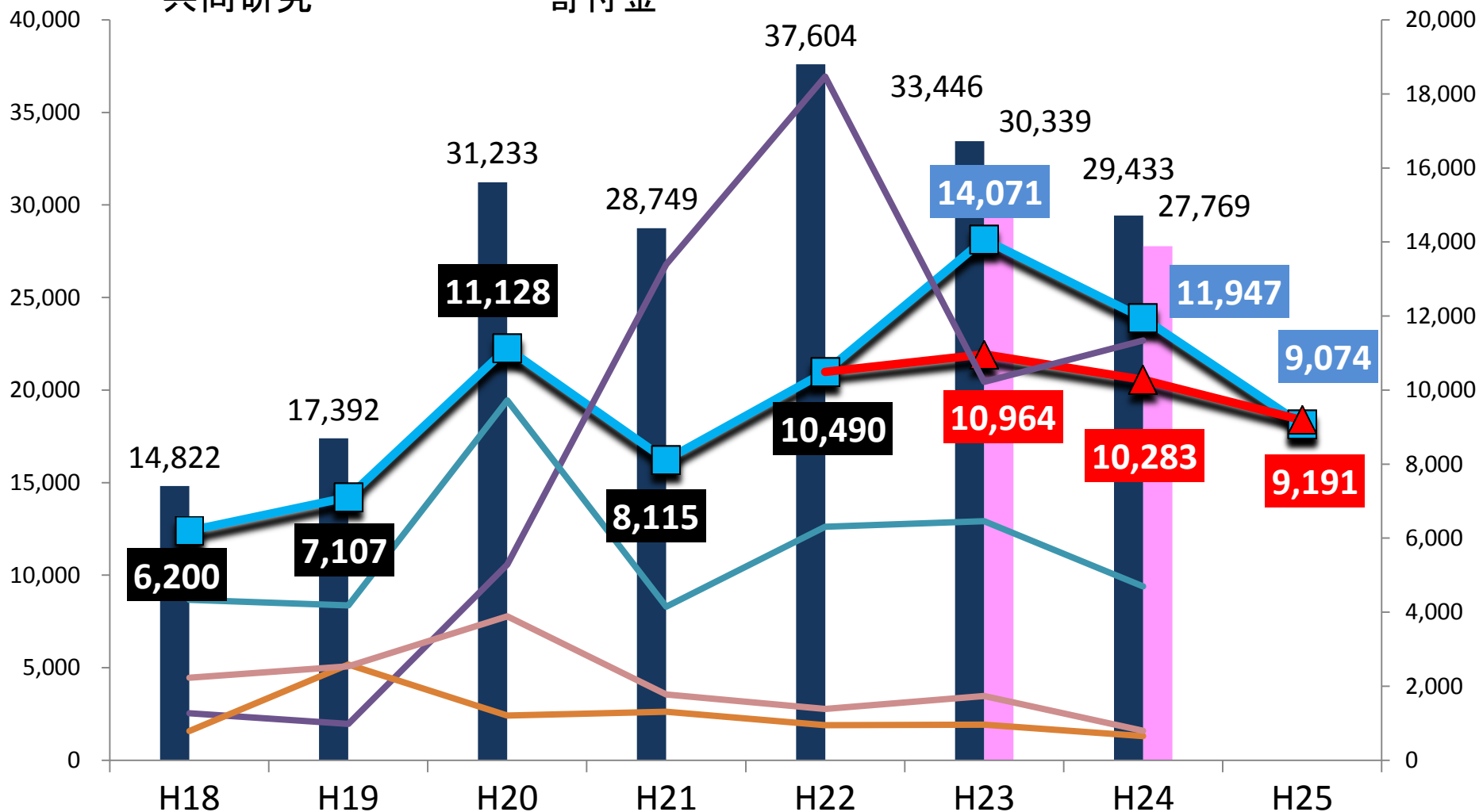
すぐに使わない
お金を含む³

外部資金の獲得状況

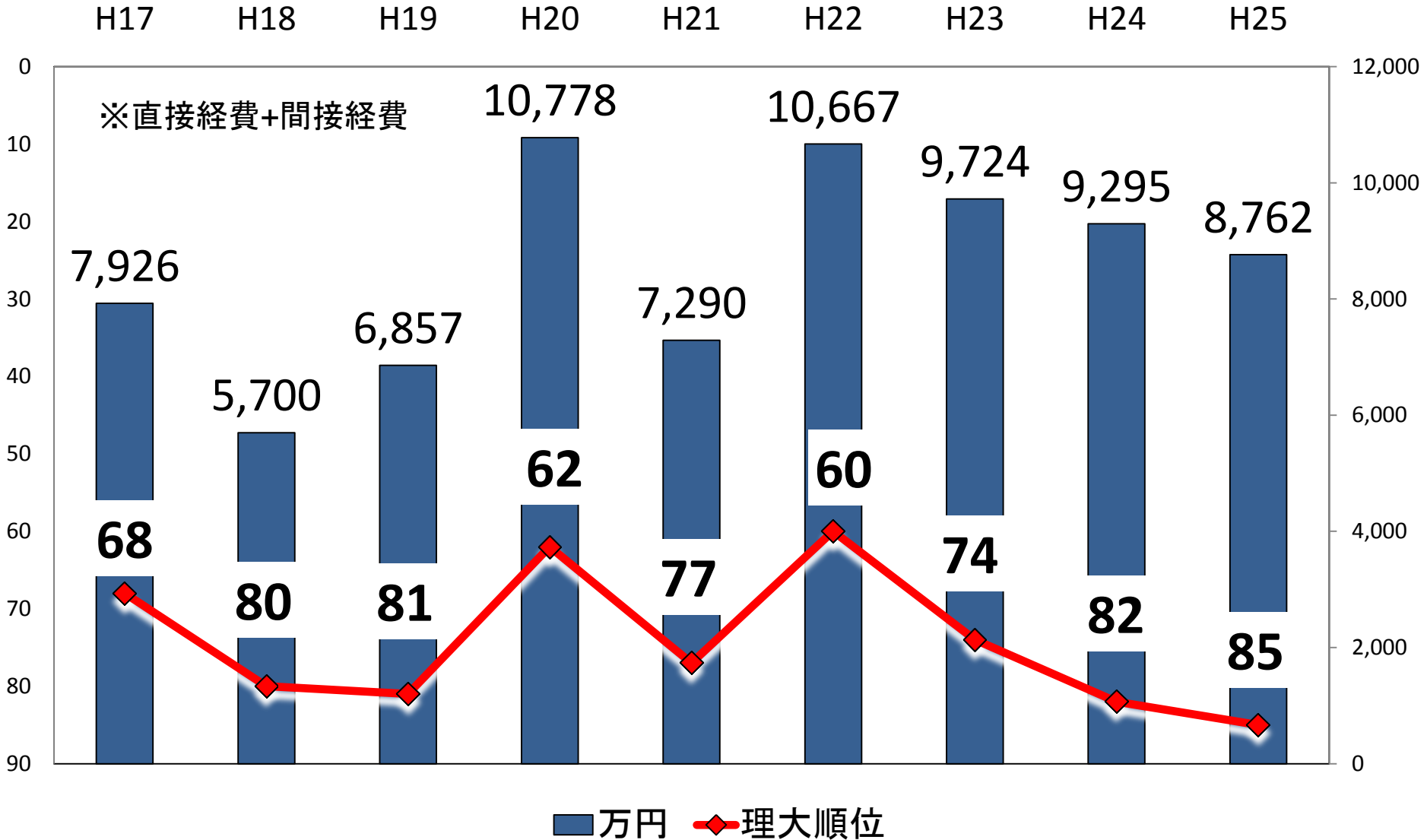
2. 理大の現状

- 外部資金計1
- ▲ 科研費(単年度)
- 共同研究
- 外部資金計2
- 助成金
- 寄付金
- 科研費(複数年)
- 受託研究

単位: 万円



全国私大 配分額※ランキング (新規+継続)



※日本私立大学協会「教育学術新聞」より

所属別 応募率 (新規+継続)

“全国”大学教員応募率(※1) 計:67%
 国立:110% 公立:80% 私立:38%

理大(※2)	理	工	総情	生地	附属 施設等	計
教員数	104	97	31	20	18	268
応募件数	50	56	7	9	6	128
昨年応募率(%)	44	62	33	47	32	49
H25応募率(%)	48	58	23	45	33	48

理大は、全国の私立大と比べ応募は多いが、国公立を含めた全体で見ると少ない。

※1:「平成24年度学校基本調査」の人数による。
 ※2:教員組織表(学内)用がベース。助手は除く。
 学部移行は移行後に含む。

所属別 応募率 (新規+継続)

“**全国**”大学教員応募率^(※1) 計:67%
(国立:110% 公立:80% 私立:38%)

理大 ^(※2)	理	工	総情	生地	附属 施設等	計
教員数	104	97	31	18	18	268
応募件数	50	56	7	9	6	128
昨年応募率 ^(%)	44	62	33	53	32	49
H25応募率 ^(%)	48	58	23	50	33	48

理大は、全国の私立大と比べ応募は多いが、国公立を含めた全体で見ると少ない。

※1:「平成24年度学校基本調査」の人数による。

※2:教員組織表(学内)用をベースとしている。

採択数	21	19	4	5	1	51
-----	----	----	---	---	---	----

種目別 新規のみ 採択率

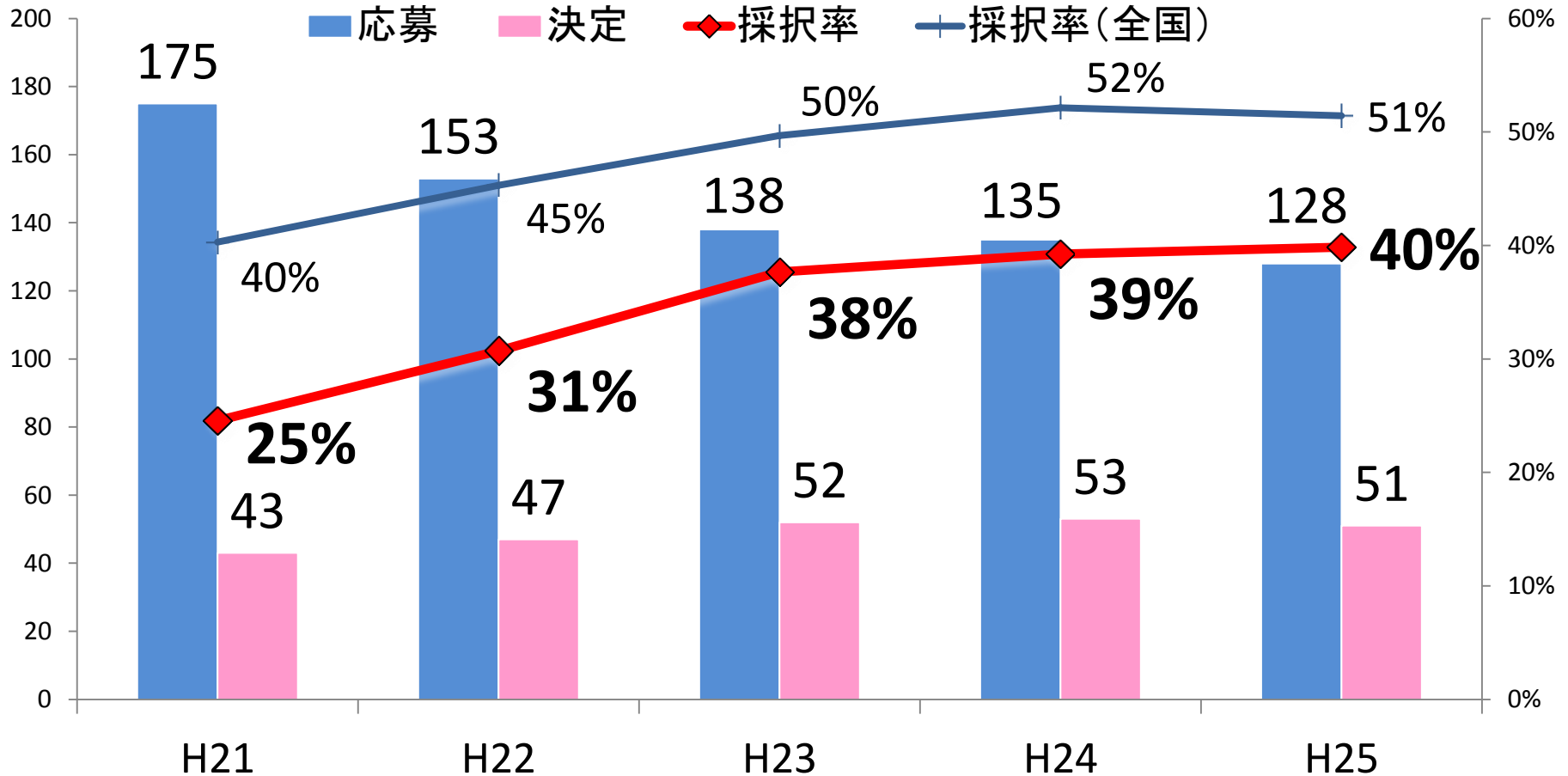
2. 理大の現状

	応募数	決定数	採択率(%)		全国採択率(%)	
			昨年	H25	昨年	H25
新学術	5	1	25	20	21	22
基盤A	1	0	0	0	24	24
基盤B	6	0	<u>17</u>	<u>0</u>	25	25
基盤C	54	8	15	<u>15</u>	30	<u>30</u>
挑戦的萌芽	8	1	25	<u>13</u>	30	<u>26</u>
若手A	1	0	0	0	22	22
若手B	14	4	<u>9</u>	<u>29</u>	30	30
スタート支援	2	—	0	—	24	—
全体	91	14	15	15	28	27

(H25.6現在)

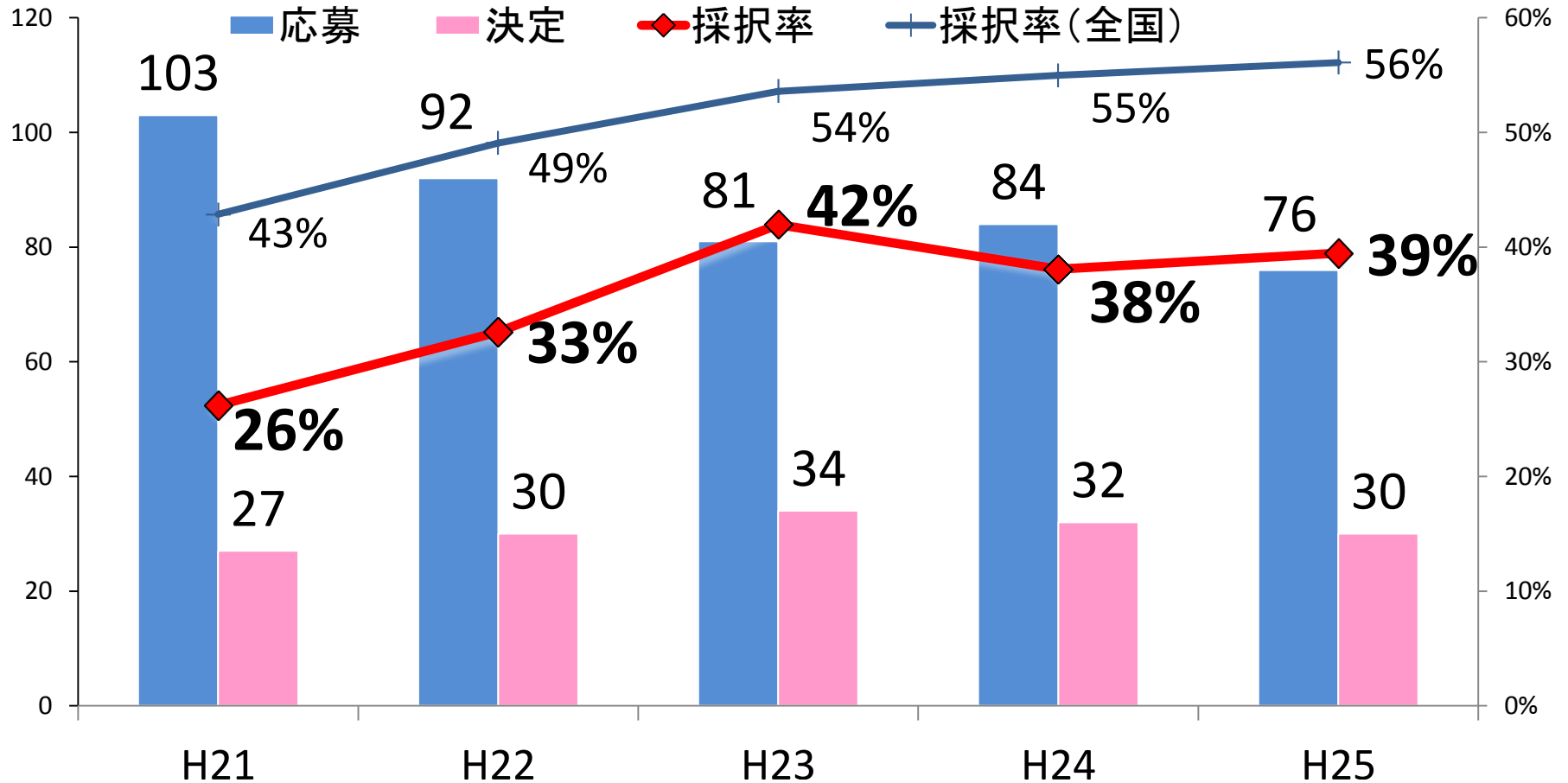
「若手B」上昇。「基盤B」減少。「基盤C」「萌芽」全国の半分。

採択率 (新規+継続)



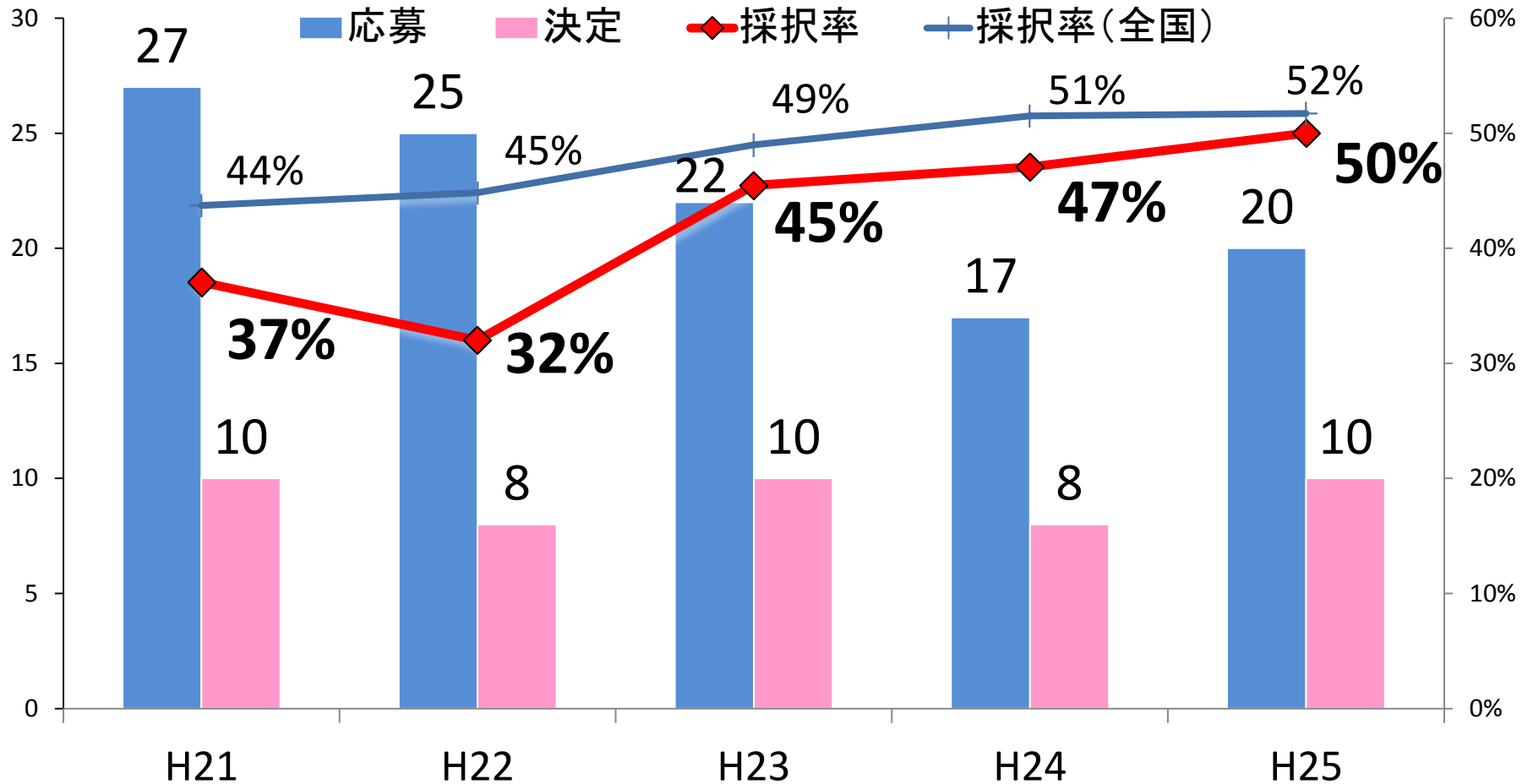
新規のみ 理大: 15% 全国平均: 27%
 (過去3年間 理大: 15~16% 全国: 27~29%)

基盤(C) 採択率(新規+継続)



新規のみ 理大:15% 全国平均:30%
(過去3年間 理大:15~16% 全国:30%)

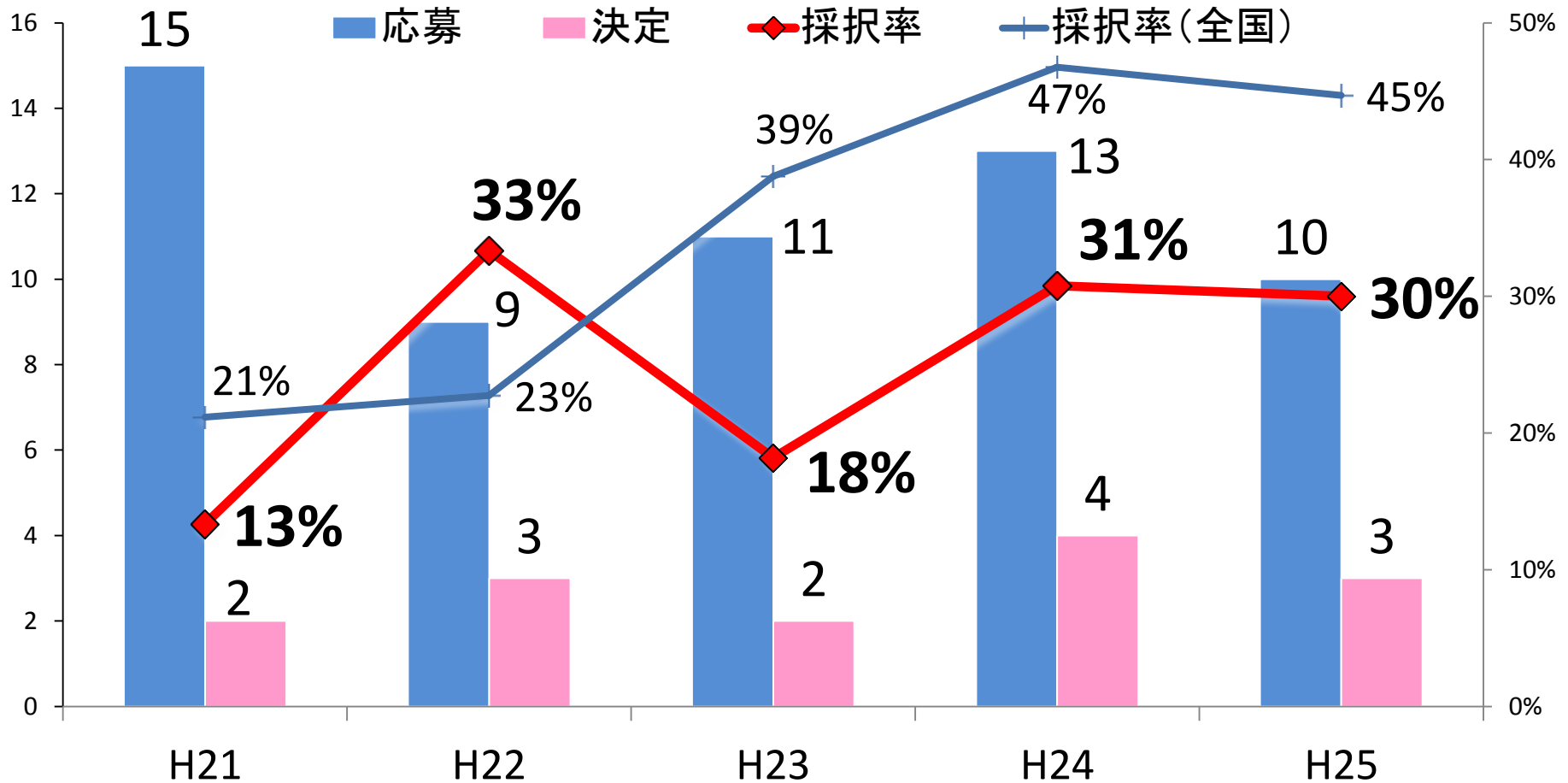
若手(B) 採択率 (新規+継続)



新規のみ 理大: 29% 全国平均: 30%

(過去3年間 理大: 9~29% 全国: 30%)

挑戦的萌芽 採択率(新規+継続)



新規のみ 理大: 13% 全国平均: 26%
 (過去3年間 理大: 10~25% 全国: 26~30%)

学科別 応募率ランキング (新規のみ)

順位	昨年	所属	教員数(※)	応募数	応募率(%)
1	1	生体	12	9	75
2	2	臨床	14	10	71
3	6	化学	15	8	53
4	4	情工	14	7	50
5	12	生化	15	7	47
6	8	建築	12	5	42
7	6	応化	17	7	41
8	3	知能	13	5	38
9	12	自然研	9	3	33
10	19	生地	20	6	30

※教員組織表(学内)用がベース。助手は除く。学部移行は移行後に含む。 13

学科別 応募率ランキング (新規+継続)

順位	昨年	所属	教員数(※)	応募数	応募率(%)
1	1	生体	12	11	92
2	5	臨床	14	12	86
3	2	知能	13	10	77
4	6	化学	15	9	60
4	9	生化	15	9	60
6	4	応化	17	10	59
7	3	建築	12	7	58
8	7	情工	14	7	50
8	7	情処セ	2	1	50
10	11	機シ	15	7	47

※教員組織表(学内)用がベース。助手は除く。学部移行は移行後に含む。 14

学科別 採択率ランキング (新規のみ)

順位	昨年	所属	教員数(※1)	応募数	採択数	採択率(%) (※2)
1	-	生地	20	6	3	50
1	-	情科	14	4	2	50
3	-	生化	15	7	3	43
4	6	知能	13	5	2	40
5	7	応物	16	4	1	25
6	-	建築	12	5	1	20
7	9	化学	15	8	1	13
8	7	生体	12	9	1	11

※1 教員組織表(学内)用がベース。助手は除く。学部移行は移行後に含む。

※2 「採択率」=採択数÷応募数×100

学科別 採択率ランキング (新規+継続)

順位	昨年	所属	教員数(※1)	応募数	採択数	採択率(%) (※2)
1	1	情処セ	2	1	1	100
2	1	応数	18	8	6	75
3	7	知能	13	10	7	70
4	4	生地	20	9	6	67
4	4	社情	15	3	2	67
4	4	基理	16	3	2	67
7	11	応物	16	7	4	57
8	11	生化	15	9	5	56
9	10	情科	14	4	2	50
10	8	建築	12	7	3	43
10	3	機シ	15	7	3	43

※1 教員組織表(学内)用がベース。助手は除く。学部移行は移行後に含む。

※2 「採択率」=採択数÷応募数×100

学科別 獲得金額ランキング (新規のみ)

順位	昨年	所属	教員数 (※1)	獲得額(※2) (万円)	1人あたり (※3)(万円)
1	-	生化	15	923	62
2	3	知能	13	455	35
3	-	情科	14	312	22
4	-	生地	20	403	20
5	6	化学	15	273	18
6	4	生体	12	143	12
7	11	応物	16	182	11
8	-	建築	12	104	9

※1 教員組織表(学内)用がベース。助手は除く。学部移行は移行後に含む。

※2 直接経費+間接経費 ※3 「1人あたり」=獲得額÷教員数

学科別 獲得金額ランキング (新規+継続)

順位	昨年	所属	教員数 (※1)	獲得額(※2) (万円)	1人あたり (※3)(万円)
1	1	知能	13	1,378	106
2	2	情処セ	2	182	91
3	13	生化	15	1,144	76
4	4	生地	20	1,196	60
4	5	応化	17	1,014	60
6	3	機シ	15	676	45
7	11	化学	15	598	40
8	6	生体	12	442	37
9	14	応物	16	533	33
10	8	社情	15	481	32

※1 教員組織表(学内)用がベース。助手は除く。学部移行は移行後に含む。

※2 直接経費+間接経費 ※3 「1人あたり」=獲得額÷教員数

採択率をUPするために

■ 目標1. 応募件数を増加。

目安: 国立110% 公立80%

→ 理大平均: 48% (1人1件以上を目標)

基盤、若手、挑戦的萌芽 と「新学術領域」の重複応募

■ 目標2. 採択率の高い種目への応募。

目安: 全国採択率(基盤C: 30%)

→ 理大(基盤C: H24(15%)、H25(15%))

■ 目標3. グループによる応募。

研究計画(調書作成段階を含む)の最適化のため、研究分担者、連携研究者としてベテラン研究者に入って頂く。

採択率をUPするために

目的：研究計画調書作成サポート。

→ 研究遂行力、研究費用の妥当性等

- 1. 作成時にアドバイザー紹介、添削。
(8割できた状態で添削すると効果大)
- 2. 読み手(審査員)を意識して、文字、
図表など読みやすさの確認。
- 3. 過去に採択された計画調書HP公開。
- 4. 実績のある研究者の講演(9月末予定)

採択率をUPするために

- 1. 人文社会系12% 理工系36%、生物系48%、他3%
→ 理工系、生物系に比べ、人文・社会系の場合、比較的少額の研究計画が多く採択されている。
(文科省全国データ:分野別配分率より)
- 2. 理大:人文社会系＝総額の**17%**獲得
(基盤(A)一般、基盤(B)海外などの種目で獲得)
- 3. 分野別の採択課題名・金額を分析
→ 科学新聞社:「科学新聞」付録CD-ROM
を貸出いたします。本室までご連絡ください。

応募者のメリット

■ 科研費応募を奨励するため、全体で500万円（H24実績）の奨励金を用意。

1. 若手教員研究奨励金 200万円（H24実績）

採択された准教授以下に応募額と獲得額の差額を按分して補填。

2. 申請奨励金 300万円（H24実績）

不採択でも審査結果の順位が「A」ランク、「B」ランクの方に按分して配分。

不正使用防止について

■不正使用とは

- ・カラ謝金 勤務簿に実働より多く記し請求する。
- ・預け金 架空の請求書を作成し支払った代金を業者に管理させ、別な物を購入する。
- ・その他 用途制限のある他の資金を混ぜた使用、カラ出張、データ改ざん・ねつ造、盗用など。

■「科研費」＝「税金」：最小の経費で最大の成果を

■「内部監査」などによるモニタリング

- 年度末に集中させない計画的遂行を。
- 発注権限、購入予算の確認でスムーズな処理を。

■「納品検収」 必ず事務局で検収を受けて納品。

不正使用防止について

- 「不正使用告知窓口」 研究者に不正使用の疑いが生じた場合、「学部長、研究科長、学科長、専攻長、大学事務局長、学部事務室長、学外連携推進室長」に届ける。
- 公的研究資金の「相談窓口」
 - ・使用ルール、申請、実績報告等 → 学外連携推進室
 - ・経費執行について → 経理部
- 利益相反の観点から、研究協力者には親族等「身内」の採用は避けて欲しい。
- 「公的研究資金等の運営・管理を適正に行なうための実施要領」 白書(資料編P.7～)又はホームページに公的研究資金等の「責任体制、使用ルール、不正使用防止計画、規程」など掲載。

応募に向けたスケジュール

1) 例年9月1日 公募開始

■ 応募説明会 **9月末予定** (実績のある研究者講演)

※ 添削相談は **10月18日** ~~切~~ **予定** (本室へ提出)

※ 様式等はHPに掲載予定

2) 応募(学内) ~~切~~ **10月25日予定**

3) 翌年4月初頭 内定通知あり

ご清聴ありがとうございました。

ご相談は、学外連携推進室まで
1学舎1階(学長室隣)